



真壁郡  
協和町

面積：36.25km<sup>2</sup>  
(平成6年10月1日現在)

人口：17,463人  
男：8,597人  
女：8,866人

世帯数：4,437世帯  
(平成7年8月1日現在)

町の花  
あじさい  
町の木  
さくら



協和町は、平坦な地形と小貝川の豊富な水そして肥沃な土地を活用し、古くから稲作を中心とした農業が盛んでした。戦後の畑地には、近代的な農業を目指した施設園芸が盛んに取り入れられ、すいか、トマト、きゅうり、メロン、いちご等が多く栽培されるようになりました。現在「紅こだま西瓜」、「きゅうり」が県の銘柄産地の指定を受け、「トマト」が推進産地となっています。

当町を取り巻く動向は、筑波研究学園都市をはじめ宇都宮テクノポリス等の開発とともに、近隣の工業系開発、北関東自動車道の都市計画決定、国道50号のバイパス整備計画、首都圏中央連絡自動車道の計画、グレーター筑波構想などにより、都市開発へのポテンシャルが著しく高まっています。このような高まりを的確にとらえるため、昭和63年に市街地整備基本計画が策定されました。平成3年には当該計画を基に工業団地基本構想、区画整理調査等を策定し、近代的な農業と調和した新たな産業都市として大きく生まれ変わろうとしています。

《協和町総合企画開発課》

課長 平間 千弘  
課長補佐 鈴木 重衛  
係長 田中 慎一  
主事 亀田 早苗



協和町役場にて（左より）田中係長、大嶋助役(平成7年国勢調査協和町実施本部長)、平間課長、亀田主事

——協和町の特長は。

大嶋助役：協和町は「紅こだま」すいかの産地として全国有数であり、今後は工業団地も視野に入れて一層の発展を目指しています。

武者行列が闊歩する小栗判官祭は町を挙げてのお祭りです。また、21世紀へむけての「人づくり」に大いに力を入れています。

——課の雰囲気はいかがですか。

鈴木：みんな明るく、年も気持ちも若い課です。

課長は食へのこだわりを持っており、課長宅でのバーベキュー・パーティは毎回大好評です。

——趣味は。

田中：<sup>フルトライトフレーション</sup>超軽量動力機。飛行機の一種で、実際に空を飛ぶと、爽快感と恐怖感とが背中合わせです。

亀田：バドミントン。週3回の練習を、その後の親睦会と合わせていつも楽しみにしています。

——よく読まれる本は。

田中：週刊少年ジャンプ歴20年。現在の一押しはストーリー性のある『ジョジョの奇妙な冒険』。

亀田：藤本ひとみの『まんが家マリナ』シリーズ。美しいラブストーリーで、いつも枕は涙で一杯。

——今、一番大切にしているものは。

田中：夢。これ以上はヒ・ミ・ツ。

亀田：ペットのかおるちゃん。雌8歳の犬です。

# 【新着資料案内】 【新着資料案内】

この資料は、平成7年8月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用下さい。  
 行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111(内線 2238・2239)

| 行政資料名               | 発行所(者)    | 行政資料名                    | 発行所(者)     |
|---------------------|-----------|--------------------------|------------|
| <b>中央省庁関係</b>       |           | <b>県内市町村関係</b>           |            |
| 円高と価格破壊に対応する日本企業    | 経済企画庁     | 県地方労働委員会年報 平成6年版         | 地方労働委員会事務局 |
| 農業構造動態調査報告書 基本構造    | 農林水産省     | 県議会定例会会議録 平成7年 第2回       | 県議会事務局     |
| 〃 果樹部門構造            | 〃         | <b>都道府県関係</b>            |            |
| 石油等消費動態統計年報 平成6年    | 通商産業省     | 統計ひたちおおた 平成7年版           | 常陸太田市      |
| 建設総合統計年度報 平成6年度     | 建設省       | 統計から見たみわ 平成6年版           | 美和村        |
| 建築統計年報 平成7年度版       | 〃         | でじまの自然                   | 出島村        |
| <b>茨城県関係</b>        |           | <b>都道府県関係</b>            |            |
| ライフプラン実施計画 平成7年度    | 職員課       | 秋田県の市町村民所得 平成4年度         | 秋田県        |
| 市町村公営企業財政実態資料 平成6年度 | 地方課       | グラフで見る彩の国さいたま 平成6年度      | 埼玉県        |
| コンピュータのあゆみ No. 25   | 情報システム課   | 岐阜県統計書 平成6年              | 岐阜県        |
| 主要事業の概要 平成7年度       | 企画調整課     | 鳥取県勢要覧 平成7年版             | 鳥取県        |
| 長期総合計画、茨城県地域計画編     | 〃         | 鳥取県の人口 平成6年              | 〃          |
| 統計からみた茨城 VOL. 26    | 統計課       | 島根県鉱工業生産指数 平成6年年間補正      | 島根県        |
| 一年のあゆみ 平成6年度        | 消費生活センター  | 山口県人口移動統計調査結果報告書 平成6年    | 山口県        |
| 事業概要 平成6年度          | 大宮地方福祉事業所 | 愛媛県統計年鑑 平成7年刊行 第44回      | 愛媛県        |
| いばらき高齢白書            | 高齢福祉課     | 佐賀県統計年鑑 平成6年版            | 佐賀県        |
| 業務概要 平成6年度          | 笠間保健所     | <b>会社・公社・団体等関係</b>       |            |
| 事業概要 平成6年度          | 水海道保健所    | 業務統計年報 平成7年版             | 国民金融公庫     |
| 蚕業研究所研究報告 第3号       | 蚕業研究所     | ライフスタイルモニタリング調査中間報告書 第2集 | 健康科学センター   |
| 蚕業研究所年報 平成6年度       | 〃         | ひたちなか市の経済動態 No. 30       | 勝田商工会議所    |
| 家畜衛生事業成績書 平成6年度     | 県南家畜保健衛生所 | 電気事業年報 平成5年度             | 東京電力株式会社   |
| 茨城教育便覧 平成7年度        | 教育庁企画室    | 〃 平成6年度                  | 〃          |

# 経 済 動 向

## 国内の動き

### ● 預金保険の対象は64%

ペイオフ(1000万円を限度とする預金の払い戻し)を実施した場合、保険の対象となる預金額は国内預金総額の64%であることが、日銀の94年9月末時点の試算で明らかになった。米国は81%(94年12月末時点)で、預金保険によるカバー率は米国に比べ低い。

試算によると、国内預金総額は全国銀行と信用金庫をあわせて約466兆9000億円。このうち、保険対象となる定期預

金などの総額から1000万円を超える部分を差し引いた保険対象額は297兆7000億円だった。米国の預金保険制度の限度額は10万ドルで日本とほぼ同じ。日本に比べカバー率が高いのは、保険の対象となる預金の範囲が広いほか、小口の預金を中心とする中小金融機関が多いことなどが原因と見られる。

(8月30日付 日経)

### ● 累積赤字7000億円

年金福祉事業団が発表した94年度の資金運用事業状況によると、同事業団の公的年金積立金の自主運用事業では、94年度に約5800億円の赤字が発生し、同年度末の累積赤字はほぼ7000億円に達した。これは株価の下落などで運用環境が悪化し、運用資産の調達先である国の資金運用部からの借り入れコストを下回る運用状況になっているためだ。逆ザヤ状態は91年度から4年連続となっており、バブル期

にため込んだ黒字を食いつぶして、93年度に初めて1207億円の累積赤字を計上。

事業団では「赤字が直接、年金給付に支障を来すことはない」と説明しているが、今後、運用部を介さない運用資産の調達といった運用改善策を所管の厚生省と共に大蔵省に求める方針だ。

(8月8日付 日経)

### ● 土地含み益、2兆円目減り

大手証券系シンクタンクの試算によると、都市銀行など大手銀行21行の94年時点の土地含み益が、1年前に比べ約2兆円目減りしていることがわかった。21行合計の土地含み益は94年時点で6兆7900億円で、1年間で22%減少した。バブル崩壊による地価の下落が主因となっており、含み益の目減りは95年も続いているとみられる。銀行は株式の含み益の減少に苦しんでいるが、土地含み益の目減りは銀行

の総合的な体力の低下を示している。

土地含み益が少なかつたり含み益が減少しても、銀行の通常業務には大きな影響はない。しかし、不良債権の償却などで経常赤字となった場合、当期黒字を確保するために土地を売却するケースがあり、土地含み益が少ない銀行はこうした手法をとりにくくなる面がある。

(8月17日付 日経)

## 県内の動き

### ● 県内の租税収入7.3%減

水戸税務署の発表による茨城県内の94年度租税収入額は、7121億5400万円で93年度に比べ7.3%減少した。同税務署は94年度に実施した源泉所得税、申告所得税の特別減税と景気回復の遅れの影響とが大きいとしている。

源泉所得税の収入額は13.6%減の2348億1700万円、申告所得税は19.1%減の696億3300万円だった。法人税は景気の

低迷の影響で4.4%減の1071億9900万円で2年連続減少。

消費税は3.7%減の733億9600万円、酒税は税率が上がったため、5.3%増の1450億8800万円だった。特別減税の影響などで直接税の全体に占める割合が3.7ポイント低下している。

(8月31日付 日経)

### ● “巨人効果”は絶大

伝説の巨人ダイグラボウの里・水戸市塩崎町の「大串貝塚ふれあい公園」が、相変わらずの人気だ。メイン施設のレックセンターの入館者は月平均で1万人を超え、開園4年足らずのうちに総入館者数は100万人を記録した。入場料がかからないことが人気の最大要因だが、「大洗へ行く途中、ダイグラボウを見て何だろうと入園する人がかなりいる」

(公園関係者)ということで、“巨人効果”も大きい。

開園前、旧常澄村は年間入館者数をおよそ2万人と予想していたが、予想を大幅に上回るうれしい結果となった。

人気の理由について市は、入場無料で古代歴史が気軽に学べること、巨人・ダイグラボウ像が人目を引くことなどを挙げている。(8月18日付 茨城)